

大豆情報第4号

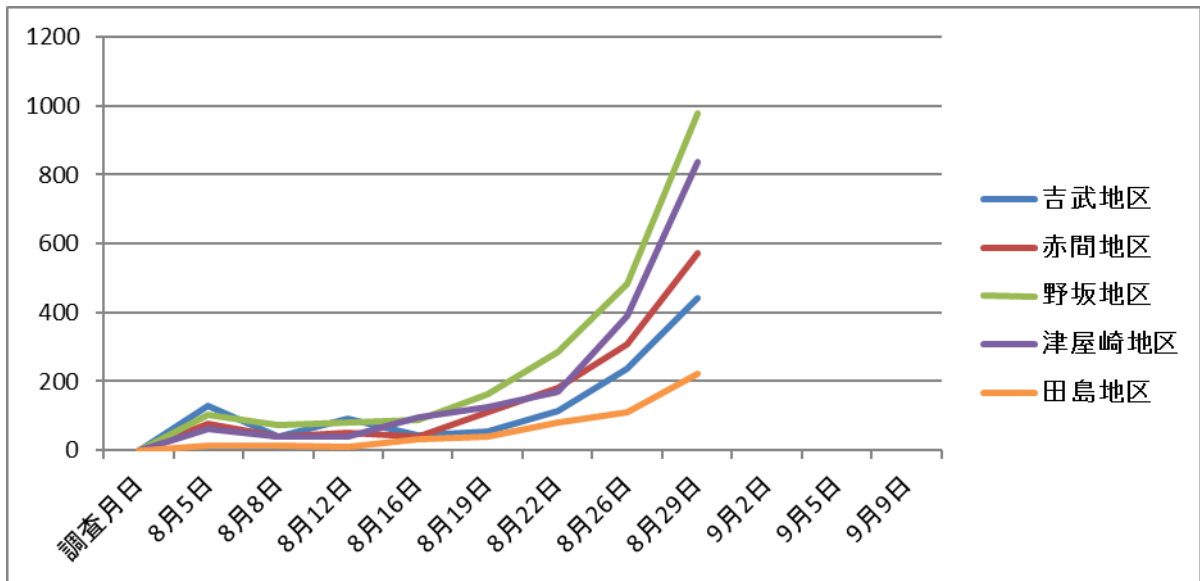
J A む な か た
北筑前普及指導センター

本年の7月から8月の気象は、平均気温は27.4℃（平年比+1.1℃）、降水量は370mm（平年比88%）、日照時間は525.9時間（平年比138%）と高温少雨傾向で推移しました。

大豆は現在、開花終期～着莢期で少雨の影響でやや抑えられているものの、順調に生育しています。これから莢の肥大期をむかえるため、次のことに注意して栽培管理を行ってください。

1. ハスモンヨトウの防除

本年のハスモンヨトウは、少雨傾向で7月下旬から白変葉が見られ、すでに防除をしているほ場もあります。フェロモントラップの誘殺数のピークは9月上旬がピークになると予想され、誘殺数ピークの10日後が防除適期になります。ただし、発生は地域やほ場で異なるため、ほ場で白変葉や虫の発生状況を確認しながら防除を実施してください。



図：宗像地域5ヶ所のフェロモントラップにおけるハスモンヨトウ誘殺数の推移
※農業共済組合宗像支所調べ

「プレバソンフロアブル5」は2回までしか使用できないので以下のように使用してください。

	使用する薬剤	希釈量
これまでプレバソンを1回のみ使用した場合	プレバソンフロアブル5	4000倍
これまでプレバソンを2回使用した場合	ノーマルト乳剤	2000倍

2. カメムシ・紫斑病防除

吸汁害による品質低下や青立ち株発生を防ぐため、カメムシ防除を徹底してください。また、同時に紫斑病防除を実施してください。

《防除上の注意点》

- ・紫斑病の防除適期は開花後3～5週目頃です。発生が多い場合は、その7～10日後にも防除を実施してください。7月上旬播きの開花期は8月中旬頃、7月中下旬播きは9月上旬頃です。
- ・広範囲に移動するため、地域で一斉防除を行いましょう。

★カメムシ類及び紫斑病防除

基幹防除	剤の種類	薬剤名	使用量 (10a 当たり)
9月中旬	粉剤	スミチオンベルコート粉剤 DL (マメシンクイガ、カメムシ類、紫斑病)	3kg
	液剤	スタークル液剤 10 1,000 倍 (カメムシ類) + トップジン M 水和剤 1,000 倍 (紫斑病)	150ℓ
9月下旬	粉剤	スタークル粉剤 DL (カメムシ類)	3kg
	液剤	スタークル液剤 10 1,000 倍 (カメムシ類)	150ℓ

※スミチオンは速効性で残効が短い。

※スタークルは吸汁阻害により、残効が長い特徴がある。スタークルの使用は2回まで。

★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ④ 防除履歴の正確な記帳